

まちづくりコラボレーション～さいたまプロジェクト

代表者	中村仁【教授】（システム理工学部 環境システム学科）
構成員	作山康、澤田英行、中口毅博（システム理工学部 環境システム学科）

大宮キャンパスが位置するさいたま市や隣接する上尾市では、大都市圏の郊外として、超高齢化に対応した都市環境の形成、地域の安全性の向上、低負荷環境の創出、経済力維持・向上と、市民・企業・行政・大学など多様な主体の協働による都市・地域計画システムの創出が課題となっている。

これらの地域課題に対応するために、地域と連携しながら教育、研究、社会貢献を実施し、学生のフレッシュな知恵と行動力で解決の糸口を切り開いていく。

上尾市では、団地内の空き店舗を活用した「サテライトラボ上尾」（2014年1月開設）を舞台に、地域活動の拠点として活動を積み上げている。また、大宮駅周辺でも、地元協議会がさいたま市との連携により開設した「まちラボおおみや」を拠点に、活動支援の立場で参加している。さいたま市見沼区との連携や東大宮駅周辺の商店街での活動も始動した。

教 育

「建築・地域プロジェクト特論」（修士1年・9名）、「都市・地域計画演習」（3年・60名）では、さいたま市の東大宮駅周辺から新都心駅周辺を対象としたPBLを実施した。

「建設工学演習・プランニング」（修士1年・9名）、「土地利用計画演習」（2年・35名）では、上尾市のUR原市団地と周辺を対象としたPBLを実施した。「建設工学演習・プランニング」では、検討段階から関係者へのヒアリングなどの連携を行っており、「サテライトラボ上尾」で実施した中間・最終発表会では、各回とも、自治会・UR都市機構・上尾市・コープみらいなど7団体・約30名が参加した。

上記以外に、「地域環境政策演習」（3年・33名）では、さいたま市を対象とした調査と政策提案を行い、最終発表会に市職員24名が参加した。また、「建築・地域プロジェクト特論」と「地域環境政策演習」の成果は、パネル化し、「まちラボおおみや」に展示した。



UR団地内店舗を活用した県内初の大学施設「サテライトラボ上尾」

研 究

「サテライトラボ上尾」の地域活動拠点としての効果に関する研究を継続的に実施しており、修士1年2名、学部4年1名が取り組み、卒業論文を取りまとめた。また、ラボを活用したプロジェクト連携として見守りロボットのデモ実証も実施した。

さいたま市見沼区と連携した研究として、区役所周辺のリニューアルを対象に新しい協働型の建築設計プロセスのあり方を提示した修士論文（設計）を取りまとめた。



「サテライトラボ上尾」でのPBL

社 会 貢 献

PBLの成果発表は活動拠点を活用した地域公開で実施し、パネル展示も行い、成果を地域に還元している。実現性の高い提案については、関係者との実施準備を開始した（団地内の移動カフェ、カレー菜園など）。

課外活動でも、学生プロジェクト「FACE TO FENCE」「キャンドルナイト」「夏祭り」と連携し、子供も含む地域活動を実践した。また、ウォーキング、コミュニティガーデン、健康体操、イルミネーションなど多様な地域活動も実践した。

また、コープみらいと連携した親子環境教室、東大宮駅周辺地区の地域コミュニティと商店街魅力発見調査・活性化戦略の立案、紹介冊子の編集など、新たな地域連携に取り組んだ。



「まちラボおおみや」での地域との交流